タンポポの花

中津市長　奥塚　正典

お母さんが息子の幼稚園の送り迎えをしていました。ある日、彼が途中で車を止めてくれと言います。車の往来の激しい通りなのにどうしてもと譲りません。しかたなく停車すると自分でドアを開けて降り、道端のアスファルト舗装の隙間から出た一本のタンポポを取って母親に渡しました。車の中から毎日見るその花が心から離れず、何としても手に入れて大好きな母親に渡したかったのです。

母親はこの息子の行動がずっと忘れられず、今までいただいたどんな美しい花よりも嬉しい贈り物だったと言います。子どもと親の情愛あふれた心温まる話ですね。

今、中津市は子どもの出生率が 1.95 と高く、毎年、700 人前後生まれています。市は、子どもを産み育てやすい環境づくりに力を入れ、医療、福祉、教育、まちづくりなど多方面から子どもの健やかな成長をサポートしています。

その中で、児童虐待への取り組みもおろそかにできません。残念ながら子どもの意に反して虐待は全国的に起こっており、成長過程で親代わりが必要になる場合があります。中津には２つの児童養護施設があり、里親になっていただいている方もいます。また、県の児童相談所があり、小児科の先生方も熱心に虐待防止に活躍いただいています。子どもの健全な成長のため、家庭、学校、地域、医療、行政がネットワークを作り協力し合っています。

タンポポは厳しい冬を越え春に可憐な花を咲かせます。花はやがて綿毛になり風に乗ってそれぞれ飛んでいきます。まるで子どもが親元から離れ広い社会に旅立つようです。子どもが親を慕う気持ちほど深いものはありません。どんな境遇であっても、みんな元気に育ち、たくましく自分の花を咲かすよう親や社会全体が子どもを見守り支えていくことが大事です。市も子育てを応援します。